

平成29年11月10日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
 (コード番号：4572)
 問合せ先 取締役経営管理本部長 山本 詠美
 (TEL：078-302-7075)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成29年2月10日に公表した平成29年12月期通期（平成29年1月1日～平成29年12月31日）の連結業績予想を、下記の通り修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正内容

平成29年12月期通期業績予想の修正の内容（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	1,440	39	35	6	0.71円
今回修正予想 (B)	701	△727	△738	△766	△82.12円
増減額 (B－A)	△738	△767	△774	△773	
増減率 (%)	△51.3%	—	—	—	
(参考) 前期(平成28年12月期) 実績 (C)	811	△423	△440	△289	△31.64

2. 業績予想修正の理由

前回公表の連結業績予想において、創薬支援事業の売上高を1,000百万円、創薬事業の売上高を440百万円と計画しておりましたが、創薬支援事業の売上高予想を701百万円（前回公表予想比29.8%減）、創薬事業は売上なし、全社で701百万円に修正いたします。

売上高予想を変更する理由について、セグメント別に次のとおりであります。まず、創薬事業におきまして、当社が開発しSierra Oncology, Inc.（以下「シエラ社」という）に導出したCDC7阻害薬SRA141は、同社の創薬戦略でありますDNA損傷応答（DNA Damage Response）を利用した治療薬パイプラインの拡充に向けて、当初の予定通り前臨床試験が実施されております。しかしながら今般、当社が先行するSRA737の臨床開発をより加速するために同社のリソースを短期的にSRA737に集中配分することを決定した結果、SRA141の臨床試験の年内開始が困難になりました。これを受け、当社においてその内容を精査した結果、同社からの臨床試験開始に伴うマイルストーンとして予定していた当期中における440百万円の売上計上が難しいと判断したものであります。それに伴い、当期通期の創薬事業におけるその他の収益計上についても精査を行った結果、修正を行なったものであります。つぎに、創薬支援事業の売上高予想については、当初計画である1,000百万円を達成するべく、主に北米地域でのDGKアッセイキットの大型契約の締結を目指し、大手製薬企業やバイオベンチャー企業に対するDGKタンパ

ク質の販売や小型DGKアッセイキットの提供を行う等、受注獲得に向けた活動を行なってまいりました。その成果として、中型のDGKアッセイキットの提供契約は当期中に獲得できる見込みであるものの、当初計画において想定していたDGKアッセイキット関係の売上220百万円の計上は、当期において達成は難しいと判断したため、北米地域の売上予想を238百万円（当初公表予想比48.9%減、対前期実績比19.4%増）といたしました。国内においては、主に小野薬品工業株式会社からのプロファイリングサービスの受託が想定を下回る見込みであることから、国内売上予想を366百万円（当初公表予想比14.1%減、対前期実績比12.5%減）といたしました。欧州およびその他地域については、当期通期の着地見込みを精査した結果、それぞれ70百万円（前回公表予想比16.8%減、対前期実績比2.0%減）、26百万円（前回公表予想比18.5%増、対前期実績比19.6%増）といたしました。

つぎに営業損益についてですが、前回公表予想において、創薬支援事業の連結営業利益を443百万円、創薬事業については△403百万円、全社で39百万円の黒字を予想しておりましたが、当期通期の営業損失は全社で727百万円となる見込みであります。セグメント別には、創薬支援事業において、上記のとおり売上高が当初予想を下回ったことに伴う売上総利益の減少等により、当初公表予想を270百万円下回る173百万円（当初公表予想比60.8%減）といたしました。つぎに、創薬事業においては、当初予定していたシエラ社からのマイルストーンの当期中の獲得が難しくなったこと等から、901百万円の営業損失となる見込みであります。

以上の結果に、営業外損益の影響を考慮し、経常損失は738百万円となる見込みであります。親会社株主に帰属する当期純損失については766百万円となる見込みであります。

なお、シエラ社に導出したCDC7阻害薬（SRA141）の前臨床試験は順調に進んでおりますので、臨床試験開始のマイルストーンは来期に獲得できるものと考えております。また、北米地域におけるDGK大型アッセイキットについては、中型のアッセイキットの受注獲得見込みを大型受注につなげるべく、顧客への丁寧な対応を通じて営業展開を図ってまいります。

今後も当社創薬パイプラインの非臨床試験ならびに化合物の最適化を積極的に推進し、自社臨床試験の早期開始ならびに製薬企業等への導出を目指すとともに、冗費については徹底的に圧縮に努め、当社事業価値の更なる向上に取り組んでまいります。

※本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上